

# 消防団を取り巻く社会環境の変化

# 社会環境の変化が消防団に与える影響について①

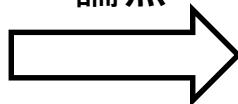
- 消防団を取り巻く社会環境は、災害の多発化・激甚化、人口減少、若者の意識の変化などめまぐるしく変化している。
- 消防団を未来につなげていくためには、議論の前提として、こうした社会環境の変化が消防団に与える影響について、整理した上で、どのように対応するかを検討する必要がある。
- 第5回検討会においては、個別の論点の前提として、社会環境の変化が消防団に与える影響についてもご議論いただいた。
- その議論をまとめると、概ね次のページのように示せるのではないか。

# 社会環境の変化が消防団に与える影響について②

## 消防団を取り巻く社会環境の変化

人口減少、若者の意識の変化  
災害の多発化・激甚化等

論点



報酬等処遇の改善

消防団自身のあり方の見直し

消防団に対する理解の促進

中間  
報告書

資料 3

社会環境  
消防団へ  
与える  
影響が

若年層の入団者数の減少 【P3】  
(人口減少、若者の意識の変化等による影響)

消防団活動の多様化 (多様な個性を有する住民の参画の必要性) 【P4】  
(人口減少、災害の多発化・激甚化等による影響)

消防団に対するイメージの定着 【P6】  
(若者の意識の変化による影響)

## 若年層の入団者数の減少

- 少子化の進展に伴う人口減少に加え、一般に若年層の価値観が変化していると言われていていることに起因して、消防団に新規入団する若年層が減少し続けている。
- この若年層の新規入団者数の減少が、消防団員数減少の一番の要因になっている。
- 特に災害が多発化・激甚化し、消防団の役割も更に多様化し重要なものとなっていることから、若年層の消防団への新規加入者の増加は、喫緊の課題である。
- 消防団員数の確保に当たっては、時代に即して、消防団を若年層が参加しやすいものに変革していく必要がある。

# 消防団活動の多様化（多様な個性を有する住民の参画の必要性）①

- 様々な地域が存在し、さらに災害が多発化・激甚化している中、消防団に求められる役割も自ずと多様化してきている。
- 多発化・激甚化する災害に適切に対応するためには、消防団が常備消防、警察を含めた地方公共団体の他の防災部局や自主防災組織、防災士など防災を担う様々な主体と連携し、各主体が適切に役割分担しながら防災に取り組み、地域防災力を充実強化していくことが必要となる。
- その前提として、まずは改めて、消防団の存在意義・役割や他の主体との違いを踏まえ、今後の消防団のあり方や運営を考える必要があるのではないか。

# 消防団活動の多様化（多様な個性を有する住民の参画の必要性）②

## 【第5回検討会における関連意見】

- ▶ 消防団活動の幅が広がれば広がるほど、色々な活動に、それぞれ得意な人、様々な経験をしている人に参加してもらうことで団の総合力が高まる。操法も大事にしながら、そして他の活動も大事にしながら、総合力を高めていく。そういう体制をつくっていくことに発展していかなければならないと思う。（秋本委員）
- ▶ 団長さんをはじめ、長年団員として、消防団とはかくあるべしという堅い意思を持って消防団を引っ張っていらっしゃる方と、何らかの形で地域に貢献したい、いざと言うときに人の命を守りたいと理想を持って入団した方との間に意識のギャップがあるのではないかと感じている。（花田委員）
- ▶ 消防団は火災防衛が一番基本的な役割だが、一方で災害が頻発する中、役割は多様化しており、団員一人一人が活躍できる形態も多様化している。（荻澤委員）
- ▶ 自分の娘婿は（市外の出身であるが）消防団の活動を通じて仲間意識を感じ、地域の一員となることができた。消防団を経てPTAや町内会の役員になっていくなど、地元でのコミュニティ醸成にとっても団活動は非常に意義があると思っている。（小出委員）
- ▶ 地域課題が広がり、消防団に対する期待が増していると考えているが、その期待に応えるためには、消火と言う原点がおろそかにならざるを得ないし、また団員数を増やさないと対応できない。また、自主防災組織をはじめ様々な組織や団体としっかり連携をすることも必要である。こうしたギャップを埋めることは難しいが、そこを解決しないと地域の防災力は上がらないと思っているので、その辺も今後議論していただければと思う。（室崎座長）

# 消防団に対するイメージの定着

- 消防団の存在意義の重要性に関わらず、負担感・厳しさといったような、消防団に対するネガティブなイメージが定着している。
- そうしたイメージは、変化する若者の価値観に合わないものであり、若者の消防団の加入意欲の低下につながっている。
- 前ページまでの立論を踏まえ、社会環境の変化に対応した消防団となるために、消防団のイメージをポジティブなものに変えられるよう、広報のあり方を含め見直していく必要がある。

## 【第5回検討会における関連意見】

- ▶ 地域住民が抱く消防団のイメージは、良くも悪くも出来上がっており、その消防団のイメージからして、親世代は子供たちには参加させられないという考えになるのではないかと思う。これまで連綿と培ってきた消防団の役割をどう現代風にリニューアルしていくのか、これが大きな命題だと痛感している。（花田委員）